

Defense Document 3072-F

Excerpt from State Department Publication
of Nazi Foreign Office Documents

(Page

Very urgent secret telegram from
Schulenburg, August 16, 1939

(Molotoff states) that the Soviet Government warmly welcomed German intentions of improving relations. . . . He was interested in the question of how the German Government was disposed to the idea of concluding a nonaggression pact with the Soviet Union, and further, whether the German Government was prepared to influence Japan for the purpose of improvement in Soviet-Japanese relations and whether a possible joint guarantee of the Baltic States was contemplated by Germany.

并渡側又きオオ三七〇七二第 F

國務省の表ナクス外務省文書抜萃

(頁)

一九三九年八月十一日付

シュルベルグ著る至急極秘電

Osaka

ソウイェト政府はドイツの實際關係改善の
意圖を大に歓迎する (とモロトフが

云々ある。) …… 彼はドイツ政府が

3072 一万 對ソ不可侵條約締結につりそよの程度の

意向をもつて且又 同政府が日ソ關係の

Def doc No 改善の爲に日本と密りし用意がある

のあつかい…… 又 ドイツがバルト諸國の

共同保障を考慮しとあるか否か

質問第一三、同氏ハカカル會見ノ目的ガ日本及ビ英國並ビニ米國ノ間ノ

係争問題ノ平和的解決ニアルカドウカト言フコト及ビカカル會見ノ成功ノ見込ニツイテ意見ヲ述ベマシタカ。若シサウトスレバ、氏ハ何ト言ヒ、又カカル會見ニツイテ、アナタガ何カ言ハレタトスレバ、何ト言ハレマシタカ。

答

質問第一四、アナタノ御觀察ニツイテ、コノ意見ノ案ガ實現シナカツタ

時ニ同氏ハ失望シタトカ、ヨカツタトカ又ハ其他ノ反動ヲ示シタデセウカ。若シサウトスレバ、ドンナ反動デシタカ。第一二、第一三、及ビ第一四。私ハ重光氏ガ「ロースヴェルト」近衛會見ノ考ニハ全体トシテ贊成シテ居タコトハ承認シテ居ルガ、本件ニツイテ氏ト特ニ會談シタコトハ想出シマセン。

答

質問第一五、アナタハ其後、當時駐米日本大使テアツタ野村海軍大將ノ「ワシントン」ニ於ケル交渉ヲ手傳フ爲ニ重光氏ヲヤルト

言フ案ガアツタカドウカ、誰カカラ聞キマシタカ。若シサウトスレバ、ソノ人ハ何ト言ヒマシタカ。外務大臣ノ最初ノ考ハ重光氏ヲ「ワシントン」ヘヤリ野村

答

の同題に興味をもつた。

外交官ノ敘勳ノ詮衡チナスニ當リ外務省ノヤリ方ハ右ノ期間中ニ起ツタ
 事件ニ參加シテ功ガアツタト云フ理由ニヨツテ詮衡スルノテハナク、寧
 ロ衝突又ハ紛争ノ防止、之ガ勃發シタ場合ニハ其ノ局地化及ビ解決竝ニ、
 此等衝突又ハ紛争ニヨル被害ニ對スル在留邦人其他ノ保護ノハタラキニ
 ヨツタノデアリマス。カカル見地カラ、事件ノ現場以外ノ外交官モ其ノ
 顯著ナ功績ニ對シ敘勳スベキモノト認メラレタコトゾアリマス。敘勳ノ
 例ノ中其ノ地位ニ比シテ高イ勳章ヲ授ケラレタモノハ例ハバ當時ノ在南
 京總領事代理ノ如ク一九三一年以降ノ事件中終始任地ニ留マツテ中國政
 府ト折衝シ事件ノ解決及ビ非敵國タル日本人居留民ノ保護ノ爲ニ働イ
 タモノ、當時ノ在滿洲里領事ノ如ク一九三二年中國ノ將軍蘇炳文ノ軍隊
 ガ滿洲里チ包圍シタ際非敵國タル日本人居留民ノ保護ニ功ノアツタモ
 ノ及ビ當時ノ在南京領事ノ書記生ノ如ク一九三二年蘇州居留民引揚援助
 ノ爲大ナル危険ヲ冒シテ同地ニ赴キ目的ヲ達シタモノデアリマス。重光
 氏モ當時ノ中華民國駐朝公使トシテ同歲ノ意旨テ勳二等旭日章ヲ敘勳シ
 レタノデアリマス。

賞勳局ガ外務省ノ申請ニ査定チ加ヘ論功行賞ガ發表シレタノハ一年以
 上後ノコト即チ一九三五年十二月デアツタト記憶シマス。此ノ行賞ノ正
 式ノ名前ハ「昭和六年（一九三一年）乃至九年（一九三四年）事變ニ於
 ケル功ニヨル行賞」デアリマス。